

広島県主食用米・非主食用米の生産及び需要動向 (令和3年11月29日現在)

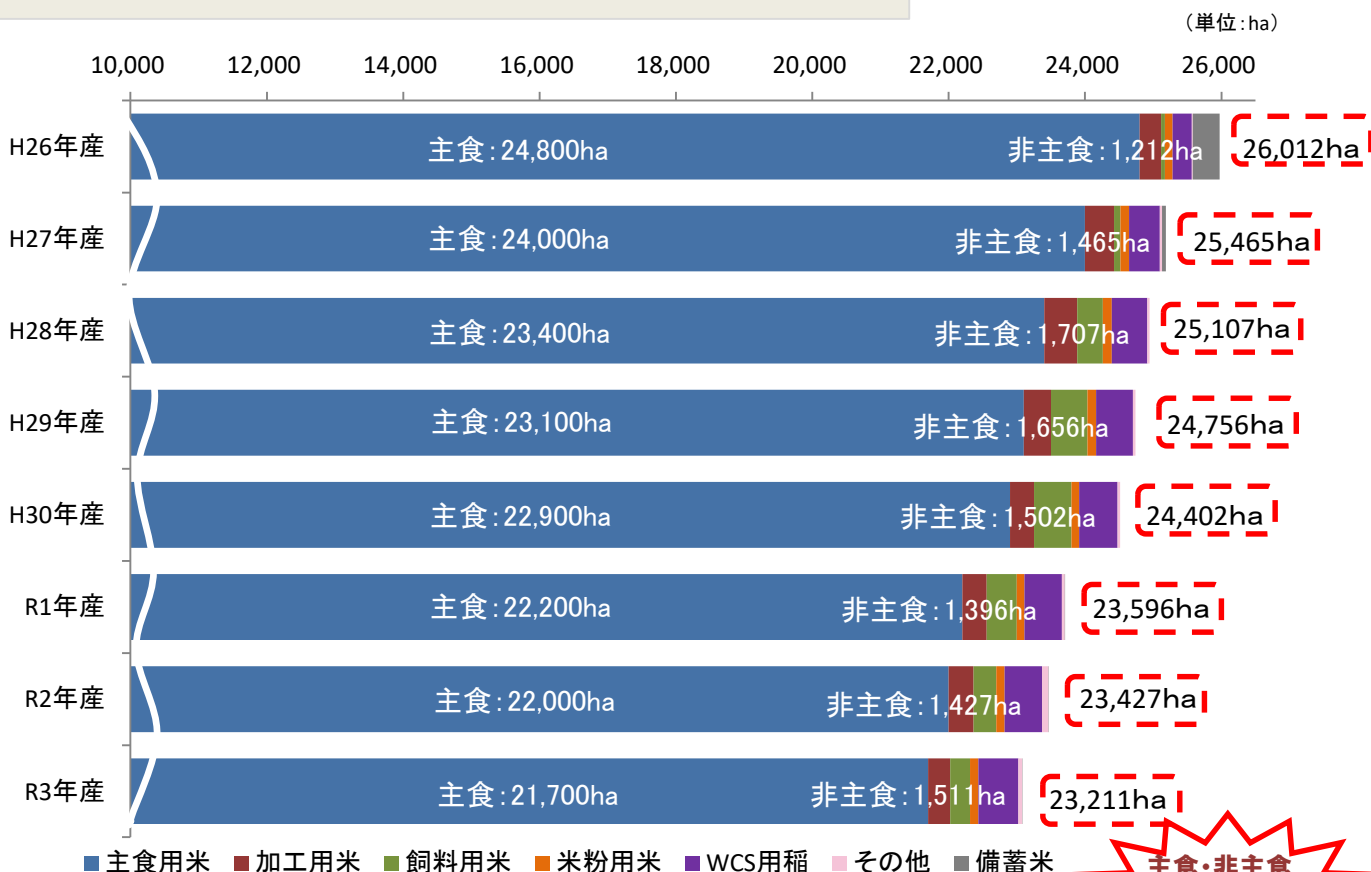
広島県農業再生協議会では、平成30年産からの米政策見直し後も、需要に応じた生産を行うため、広島県内の水稲の生産状況や需要動向をまとめ、生産者の皆さんに情報提供しています。

○県内の水稲作付面積は主食用米作付け面積の減少とともに年々減少しています。特に平成26年産は米価が大きく下落し、その影響により、翌年の平成27年産は大幅に減少しました。

○一方、非主食用米の作付面積は、米価の下落の影響を受け、飼料用米への転換が進み、平成26年産～平成28年産にかけて、大きく増加しました。また、令和2年産と令和3年産においてもコロナ禍の影響による酒米需要の減少等により、新市場開拓用米及び飼料用米への転換が進みました。

○令和4年産も、需給安定に資する取組が求められる中、主食用米については、需要に応じた生産を継続するとともに、非主食用米への作付の取組も進めるなど、主食用米と非主食用米の組み合わせにより、水田の生産基盤を維持していくことが重要となっています。

県内の水稲作付面積の年次別推移



出典: 農水省需給調整関係公表資料。備蓄米は県再生協調べ。

※令和2年産及び令和3年産は輸出向け日本酒の原料用の酒造好適米が非主食用のその他に含まれている。

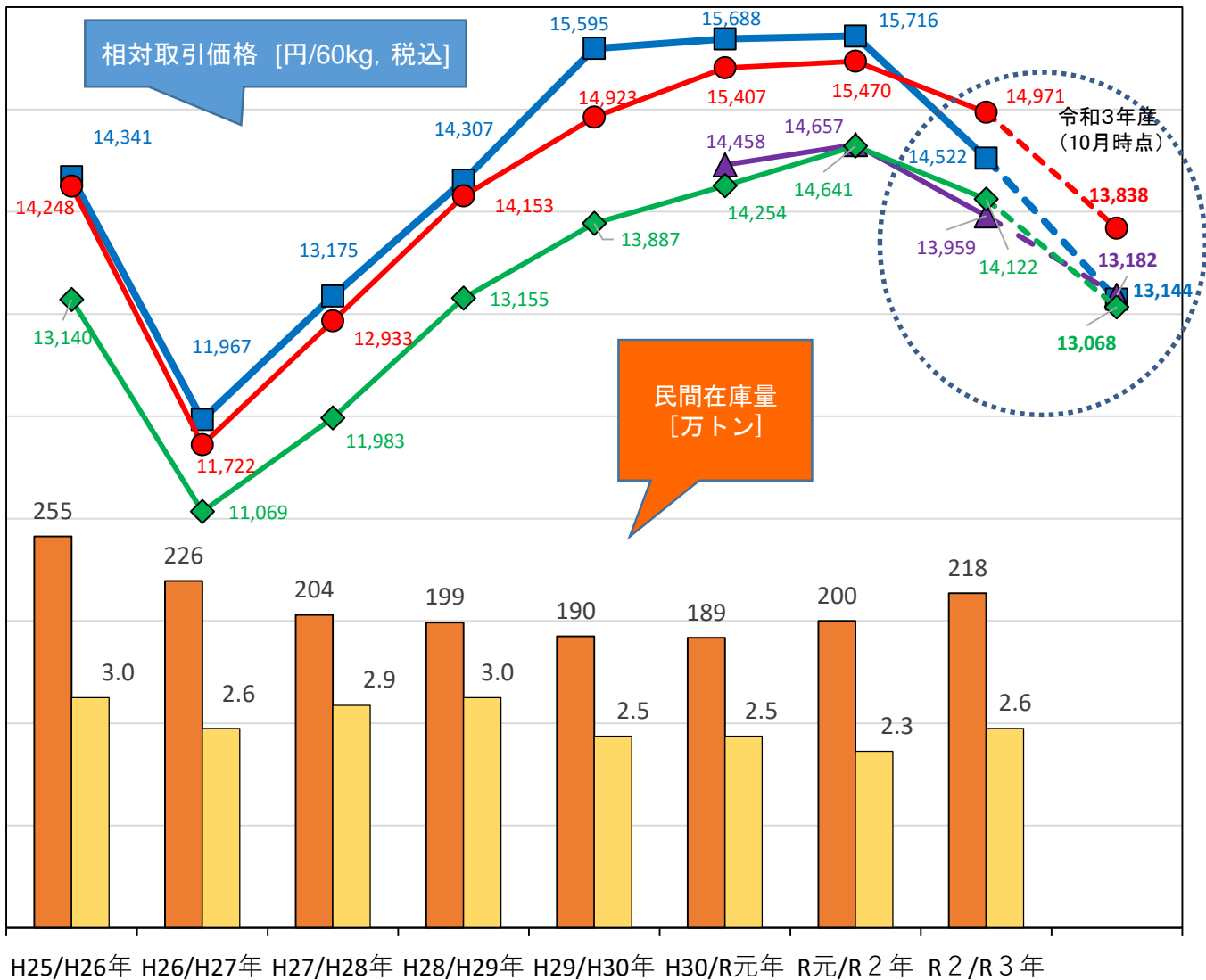
主食用米・非主食用米
合わせて水稲
作付面積全体
で維持!!

年産別相対取引価格と民間在庫の推移

○コロナ禍の影響により、業務用を中心に需要が落ち込み、全国の民間在庫(R3年6月末)は前年より約18万トン増加し、218万トンとなり、令和2年産から全国銘柄平均の相対取引価格が下落しています。

○広島県においても、全国的な需給緩和の影響を受け、相対取引価格は下落傾向にあり、県外産が流入し、一部の需要が県外産に置き換わりつつあります。

○**地産地消を中心とした県産米需要に着実に応えるためにも、まずは販売先のニーズを把握し、需要者と結びついた生産がますます重要となってきます。**



- 全国
- 相対取引価格 (全国全銘柄平均)
- 相対取引価格 (広島県あきさかり)
- 広島県
- 相対取引価格 (広島県コシヒカリ)
- ◆ 相対取引価格 (広島県あきろまん)

出典：農林水産省「米の相対取引価格(通年平均)」「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」
 ※価格は出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格(運賃・包装代・消費税を含む1等米価格)の加重平均したものの。ただし、広島県の各銘柄の価格には全農契約分の運賃は含まれていない。

米の銘柄(品種)別検査数量の年次推移と令和4年産主食用米需要動向

○令和4年産主食用米の需要動向はコロナ禍の影響を受け、販売先ごとに状況が異なっています。家庭用では、県産米として需要が定着している品種や地域の特色ある取組に対する需要は安定しています。一方、業務用は、コロナ禍の影響により、需要が減少しているものの、安定価格・数量による契約栽培や業務用向けとして特性がある品種においては一定の需要が想定されます。

品種名	検査数量(t)					令和4年産		栽培適地
	平成28年産	平成29年産	平成30年産	令和元年産	令和2年産	トレンド	需要動向	
コシヒカリ	28,301	26,374	25,588	23,016	22,292	△	主に家庭用で、地域の特色ある取組が進むなど県内需要が定着している。一方、県外産米との競合もあり、需要動向は業者によって異なる。	標高550m以下
ヒノヒカリ	5,208	2,592	1,616	1,391	979	△	良品質であることを前提に一定の需要は想定されるが、近年高温障害による品質低下が懸念されている。需要動向は事業者によって異なる。	県南部(標高200m以下)
あきろまん	6,091	5,184	5,021	4,077	3,752	↗	広島県独自銘柄として知名度が高く、県内需要が定着している。今後も、主に家庭用需要の増加が見込まれる。	県中北部(標高150~350m)
あきたこまち	1,956	1,865	1,691	1,674	1,531	△	全国銘柄として一定の需要があるものの、県外産米との競合もあり、需要動向は業者によって異なる。	県北部・高冷地(標高400m以上)
ひとめぼれ	3,449	2,991	3,236	2,759	2,585	△		県北部・高冷地(標高300~550m)
こいもみじ	1,315	1,172	891	695	637	↘	広島県独自銘柄として主に業務用の需要があるものの、近年の生産量減少に伴い、需要減が想定される。	県北部・高冷地(標高350~600m)
あきさかり	5,479	6,147	9,026	10,229	10,535	↘	品種特性から家庭用・業務用ともに需要があるものの、全国的な米の需給緩和に伴う県外産米との競合やコロナ禍の影響により、主に業務用需要の減少が想定される。	県中北部(標高150~500m)
恋の予感	601	2,511	2,551	1,949	1,189	↗	近年、地域性のある品種として主に家庭用としての需要が増加している。また、品種特性から業務用においても一定の需要が見込まれる。	県南部(標高150m以下)

出典：H28～R2検査数量：農林水産省『米穀の農産物検査』（令和2年産は、令和3年3月31日現在の速報値）
 令和4年産仕向け別動向：県内米取扱事業者への調査を参考に作成（令和3年10月県再生協調会）
 ◊・・・調査対象者のR3対比需要量・需要動向から需要増が想定される。
 ◌・・・調査対象者のR3対比需要量・需要動向から需要減が想定される。
 ⇒・・・調査対象者のR3対比需要量・需要動向からR3年産並みの需要が想定される。
 △・・・調査対象者のR3対比需要量・需要動向の方向性の不一致による需要増減の判断が困難

令和4年産は県内の主要な主食用米取扱事業者（4社）への調査を基に現時点の大まかな傾向を掲載しています。営農計画を作成する際は取引先等に必要な銘柄・需要量をご相談ください。

広島県産非主食用米の生産量推移と令和4年産需要動向

○令和4年産非主食用米のうち、加工用米は県内酒造会社、県外冷凍米飯メーカーを中心に需要は微増、県内畜産業者へ供給する飼料用米は令和3年産と同程度から増加が想定されます。WCS用稲は県内国産飼料の安定的な確保に向け、需要拡大が想定されます。

用途	生産量(t) (WCS用稲:ha)					令和4年産	
	平成29年産	平成30年産	令和元年産	令和2年産	令和3年産	トレンド	需要動向
加工用米	2,117	1,839	1,873	1,926	1,687	⇒ ～ ↗	県内酒造会社、県外冷凍米飯メーカーを中心に需要の微増が想定される。
米粉用米	664	593	591	661	658	⇒	県内製粉業者の需要はR3年産と同程度が想定される。
飼料用米	2,928	2,337	1,761	1,568	2,268	⇒ ～ ↗	希望量に対して確保量が十分でなく、更なる増産を要望する県内養鶏業者等もあり、県内需要の動向は業者により異なるが、R3年産と同程度から増加が想定される
WCS用稲	541	562	552	549	585	↗	県内向け国産飼料の安定的な確保に向け、需要拡大が想定される
計 (WCS除く)	5,709	4,769	4,225	4,155	4,613	—	—

出典：H29～R2生産量：農林水産省『加工用米の取組計画認定状況』『新規需要米の取組計画認定状況』（需給調整カウントとなる加工用米・新規需要米の取組として認定を受けた数量(面積)）
R3生産量：県再生協調べ

令和4年産仕向け別動向：県内非主食用米取扱事業者への調査を参考に作成(令和3年10月県再生協調べ)

R4年産トレンド：↗…調査対象者のR3対比需要量・需要動向から需要増が想定される。

↘…調査対象者のR3対比需要量・需要動向から需要減が想定される。

⇒…調査対象者のR3対比需要量・需要動向からR3年産並みの需要が想定される。

⇒～↗…調査対象者のR3対比需要量・需要動向に幅があり、R3年産と同程度から需要増が想定される。

令和4年産は県内で非主食用米取扱のある事業者(4社)への調査を基に大まかな傾向を掲載しています。営農計画を作成する際は取引先等に必要な銘柄・需要量をご相談ください。

飼料用米については、一部の需要者から需要量に対して生産量が足りていないため、増産を要望されています。具体的な相談をされたい場合は下記の問い合わせ先に御連絡ください。なお、取引上の条件等詳細については需要者を紹介しますので、直接お問い合わせください。

作成：広島県農業再生協議会 (HP: <http://www.h-suiden.jp/>)

《問い合わせ先》広島県(広島市中区基町10-52 農業経営発展課 電話082-513-3557)